

矢作川流域圏懇談会通信

R6 山部会編 vol. 2



発行日：令和6年9月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第70回山部会WGを開催しました！

恵那市にて第70回山部会WGを開催しました。今回のWGは、テーマ別の活動進捗状況の報告や「えーな木育クラブ」の会長より活動を紹介していただきました。

日時：令和6年7月26日（金） 13:00～17:00

場所：HYAKKEI（恵那市）

参加者：24名 ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. テーマ別の活動進捗状況の報告



テーマごとに活動進捗状況及び今後の目標について、担当者より報告いただき、意見交換を行いました。

■流域圏担い手づくり事例集（豊田市矢作川研究所 洲崎 主任研究員）

- ・ 7月6日、7日に開催した事例集交流会について報告しました。
- ・ 事例集交流会は2日間に分けて開催され、第54回海部会WGを兼ねて開催されました。会場の鳥羽市立海の博物館には、過去最多の41名が集まりました。多様な取材対象者と寄稿者、関係する団体の報告後、意見交換を行いました。翌日は笠志島内でエクスカージョンを実施しました。奈佐の浜海岸のゴミの状況や、奈佐の浜の近隣に形成されている湿地帯に生息するトンボと湿地環境の変遷についての説明を聞き、その後は海女小屋で新鮮な魚などを食べながら海女さんの貴重な話を伺いました。
- ・ 事例集交流会では以下の方々に報告していただきました。
 - ・ 青木伸一氏（海部会座長） ・ 平賀大蔵氏（海の博物館館長） ・ 蔵治光一郎氏（山部会座長）
 - ・ 小田和人氏（海女の森プロジェクト代表） ・ 岡田誠氏（三重県水産研）
 - ・ 米田紗歩氏、筒井千遥氏（22世紀奈佐の浜プロジェクト） ・ 中村欣一郎氏（鳥羽市長）

■山村ミーティングと森づくりガイドラインの協働（山部会 丹羽 副座長）

- ・ 「森の人をつなぐ」が刊行されました。（矢作川流域圏懇談会HPで閲覧可能）今後、「森の人をつなぐ」を活用して情報発信していきます。

■森づくりガイドライン（山部会 蔵治 座長）

- ・ 令和6年度第1回とよた森づくり委員会の内容を情報共有しました。
- ・ 豊田市では、目標とする森林像を人工林/天然林に分けて、ゾーニングして管理することを目指しています

■木づかいガイドライン（根羽村森林組合 石原 参事、山部会 蔵治 座長）

- ・ 根羽村森林組合で使用している生分解性オイル、企業との連携による森づくりに関する取り組みを紹介していただきました。
- ・ 蔵治座長より今期から新たな取り組みとして矢作川流域圏に含まれるすべてのエリアでどのような木づかいが行われているかを把握し、流域産材というものを広めていくために「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律（都市の木造化推進法）」に基づいて矢作川流域の各自治体で設定された「建築物における木材の利用の促進に関する基本方針」を比較していくことを提案されました。木づかいガイドラインの新たな担当者は鈴木建一氏になりました。

2. 恵那市の話提供



- ・ 令和5年から市森林環境教育推進協議会（えーな木育クラブ）の会長を務める高橋寿成氏から活動内容を報告していただきました。えーな木育クラブは木育を行うことにより自然を理解し愛着を持ってもらうことを目的に設立され、市内のこども園での木育教室や市民対象の木育教室、ネイチャーゲームリーダー養成講座、ファーストマイスプーン事業など、さまざまな事業に取り組んでいます。

3. 「山林を見届ける～素人零細山主の終活トリセツ～」ダイジェスト版



- ・ 翌27日、タ立山森林塾と共同で開催する「山林を見届ける～素人零細山主の終活トリセツ～」についてダイジェスト版を発表していただきました。（詳細についてはFWの通信に記載）

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ➤回答)

【テーマ別の活動進捗状況の報告】

1. 流域圏担い手づくり事例集

- ・海や山に関わる方や学生等の多種多様な参加者が交流できたことが重要な成果と考える。(近藤)

2. 山村ミーティングと森づくりガイドラインの協働

- ・「森の人をつなぐ」をきっかけにプロの林業者とアマチュア、ボランティアの人がつながるきっかけになったと考える。(丹羽)

3. 森づくりガイドライン

■令和6年度第1回とよた森づくり委員会について

- ・森林飽和によって集落の森林も巨木化している。森林は、スタンスの長い畑のようなもので本来は適正期に収穫(伐採)する必要がある。巨木化した樹木は住民で伐採することができないため、地域と行政が一体となっていく必要がある。(山本)
- ・できることではなく、やらなければいけないことを考える必要がある。そこを動かしていくのは都市部であるが都市部が山や海の問題を把握できていないことが問題である。(近藤)
- ・岐阜県の森林づくり計画では4つの将来目標区分に分けており、「木材生産林」と「環境保全林」、「観光景観林」、「生活保全林」に分けている。(早田)

4. 木づかいガイドライン

■根羽村での取り組みについて

- ・生分解性オイルの値段は今までのものと比較すると若干安くなっている。(石原)
- ・日間賀島とはどういったネットワークをきっかけに交流があったのか。(丹羽)
 - 働きかけに行ったわけではなく、日間賀島の方から話をいただき、交流している。(石原)
- ・これまで実施してきた根羽村ミライ合宿等は前任の今村氏が先導していた。根羽村は山間部の問題等を学ぶ場としてとても重要と考えている。今後も継続していくために根羽村と連携していきたい。(近藤)

■今後の木づかいガイドラインについて

- ・新たな木づかいガイドラインの活動を通して山林を持たない自治体を巻き込んで広めていきたい。(鈴木)

【恵那市の話提供】

- ・恵那市以外でも活動しているのか。(近藤)
 - 恵那市の補助金を受けて活動しているため、恵那市内の公園や山をフィールドとしている。(高橋寿)
- ・参加者は地元の方が多いいのか(鈴木)
 - 参加者は地元の方が多いが、スタッフは移住者が中心である。(高橋寿)



今後の予定

次回の山部会WG・FWは、令和6年9月6日(金)～7日(土)根羽村にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、係長 小池、技官 中野
TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。



矢作川流域圏懇談会通信

R6 フィールドワーク vol.2



発行日：令和6年9月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆山林現場の見学、WG ディスカッション

タ立山森林塾と共催で丹羽氏所有の皆伐した山林現場を見学し、午後にはWG ディスカッションを実施しました。

総勢 45 名の方が参加し、「山主と林業者の幸せ」を様々な立場の方々と意見交換しました。

日時：令和6年7月27日（土） 9:30～15:30

場所：恵那市 山林現場

案内：佐藤氏（佐藤林業）、丹羽氏（山部会副座長）

参加者：45 名（事務局を含む）



◆フィールドワークの記録

丹羽氏は2024年6月に先代から継いだ小さな山林を佐藤林業で皆伐しました。現場は急傾斜地で崩落跡もあるような現場でした。山林現場の状況や伐採していない近隣の山林現場を確認しながら、佐藤氏と丹羽氏に状況を説明していただきました。



◆WG ディスカッション「山林を見届ける～素人零細山主の終活トリセツ～」

実際に間伐した山林現場を見学した後に、WG ディスカッションを実施しました。丹羽氏のそれまでの葛藤や決断、必要な手続き、費用等を公開していただき、同じような葛藤を持つ山主の方に情報を発信しました。「山主と林業者の幸せ」を様々な立場（山主、事業者、行政、ボランティア、学生、研究者等）の方々と意見交換しました。総勢 45 名の方が参加しました。

【意見紹介】（アンケートからの抜粋）

- ・山を所有することのメリット/デメリットが知りたい。少しでもプラスになるのであれば持っていて幸せに感じるのではないかな。山の扱い方に関するサポーターが必要と感じる。（山主）
- ・環境へアプローチできることが林業者の幸せと感じる。（事業者）
- ・山に想いがあるって接している人（キノコや木材等の様々な理由）は山をどうしたいか明確である。（事業者）
- ・山を持っていてうれしい、楽しいことがある等（収穫物がある、山の中で遊べる等）の山主がどう思うかが問題。（ボランティア）
- ・様々な業種・関係する方など多くの流域の方に森林の問題を知っていただくことが重要。（行政）
- ・行政が木材価格を上げることが重要である。（研究者）



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、係長 小池、技官 中野

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課（cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp）までお送りください。

